

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

1 / 2

団 体 名	NPO 法人小樽青少年科学技術の芽を育てる会		
事 業 名	IchigoJam プログラミング教室		
実 施 期 間	10 月 22 日、11 月 19 日、12 月 17 日、2 月 11 日		
事業の目的及び期待する効果	当団体では、まちづくりとは「人材育成」であり、「人材育成」が小樽のまちづくり発展に寄与するものと考えています。小樽市は観光都市として全国に知られていますが、近年、観光業界を始めとする様々な分野で ICT や IoT といった「情報をどのように活用するか」という考え方が注目されています。これはコンピュータプログラミングの技術を活用するもので、2020 年度から小学校においてもプログラミングの授業が必修化されることから、これらの分野が重要視されていることがわかります。 ICT や IoT をまちづくりに活かすために、専門的に学ぼうとする場合、プログラミングは、理系の学問分野になります。そのため、理系分野の基礎を身につけた人材の育成が必要だと私たちは考えています。 そこで本事業では、児童・生徒に、理系分野を学ぶための基礎となる「論理的思考」と「知的探究心」を育くむことを目的として、複数回のプログラミング教室を実施します。本事業では、児童・生徒自身に手を動かし考えてもらい、実際に動作するプログラムを作り出してもらいます。自分の力でプログラミングが出来たという「成功体験」を通して、「論理的思考」の習得と、もっと学びたいという「知的探究心」の醸成が期待できます。同時に、若い時期に小樽で楽しかった経験を増やすことで、小樽への帰属意識が醸成されます。本事業により、次世代の小樽のまちづくりを担う人材の育成につながると考えています。		
実 施 額	事業費	330,411 円	助成額 300,000 円
事 業 内 容	体験教室 IchigoJam でプログラミングを体験しよう！ 本事業では、小・中学生向けのプログラミング体験教室を、平成 29 年 10 月から平成 30 年 2 月の期間において、計 4 回（1 回の教室は、同内容で午前と午後の 2 回行うため、延べ 8 回）開催しました。 小型 PC、IchigoJam 上において実行する BASIC 言語を用いて、簡単なプログラムの記述方法から開始して、1, 2 回目が LED 信号機、3 回目が扇風機、4 回目は、赤外線ロボットカーの制御プログラムの作成を行ってもらいました。 なお、本事業は、プログラミングに必要な機材を全て当団体で準備することで、参加者の持参物等は必要なく、また無料で実施するため、気軽にプログラミング体験をできるようになっています。		

○内容が分かる「資料やチラシ等」を添付してください

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
10月22日	第1回 Ichigojam でプログラミングを体験しよう！	30人	26人
11月19日	第2回 Ichigojam でプログラミングを体験しよう！	30人	26人
12月17日	第3回 Ichigojam でプログラミングを体験しよう！	30人	25人
2月11日	第4回 Ichigojam でプログラミングを体験しよう！	30人	19人

○事業評価について

1. 事業の目的の達成度

全ての回において、全参加者が、IchigoJam を用いて制御プログラムを完成させ、その回のミッション(LED 信号機を点灯させる。扇風機の回転を制御する。赤外線カーを走らせる。)を達成することができた。本事業の目的である自分の力でプログラミングが出来たという「成功体験」を通して、「論理的思考」の習得と、もっと学びたいという「知的探究心」の醸成がおおむね達成できたと考えている。また、数人のグループを作り、お互いの意見を言いながらプログラムなどを改良するなどの機会を設けることにより、子ども達の間での交流も生まれ、自分の意見を伝える・他人の意見を聞くという「アクティブ・ラーニング」の経験も積めたのではないかと考えている。

2. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

毎回の教室終了後に、参加した子ども達、保護者にそれぞれアンケートを実施したところ、子ども達は毎回9割以上が、「また参加したい」、保護者の8割が「また(子どもを)参加させたい」と回答した。実際に、4回目の参加者における参加回数が2回以上のリピーターは8割以上(19人中16人)となっており、参加者の満足度が十分満たされていた結果であると考えている。

3. 今後の事業について

今後の事業については、例えば午前中は初級者向け、午後は複数回参加者向けの中・上級的内容にするなど、参加する子ども達のレベルに合わせて、プログラミングをより気軽に体験してもらえるような内容にし、これまで以上にプログラミング体験への裾野を広げていきたいと考えている。

また、参加した保護者から自分もやってみたいとの声があったので、成人向けの体験教室についても検討したい。

4. 「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」に関する要望事項等